

整理番号	112	事業名〔地区名〕	交付金事業(港湾)(再生・復興) 〔いわき市 小名浜港〕	全体事業費	3,212百万円	採択年度	H28	完成目標年度*	H32	担当部(局)課名	土木部・港湾課
------	-----	----------	---------------------------------	-------	----------	------	-----	---------	-----	----------	---------

※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

評価対象理由	計画変更を行おうとする事業	前回評価時の対応方針	委員会からの提言：－、付帯意見等：－、県の対応方針：－
--------	---------------	------------	-----------------------------

## 1 事業の概要

- 本事業は、小名浜港三崎航路において、一部区間の航路幅が43mと狭小であり、漁港エリアを利用する大型漁船がすれ違いできない状況であるため、狭小部である西防波堤を18m撤去し、航路幅を60mへ拡幅する。  
また、三崎航路の波高が高いため、漁船の入港に支障をきたしている状態であることから、三崎航路の安全性を向上するため、三崎防波堤を110m延伸し、効率的な漁業活動の支援及び入港する船舶の安全確保を行う事業である。

位置図



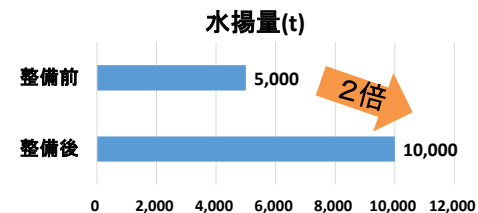
### 事業概要

- 三崎航路拡幅 17m  
(西防波堤撤去 L=18m)
- 三崎防波堤延伸 L=110m

### 三崎航路の整備効果

#### ①水揚量の増加

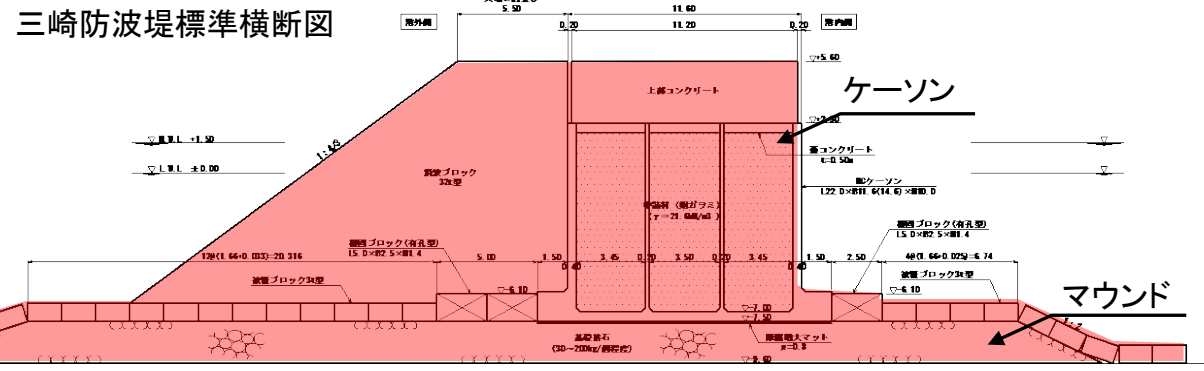
航路の拡幅及び防波堤の整備により航路の安全性が向上するため、小名浜港を利用する漁船が増加し、水揚量が増加します。



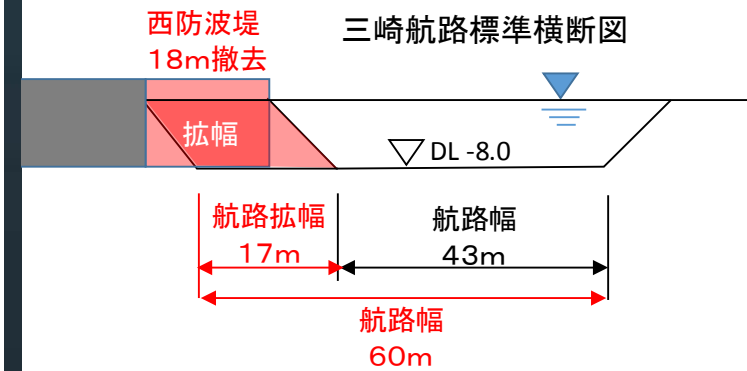
#### ②水域避泊の確保

防波堤の整備により港内静穏度が向上するため、荒天時に水域避泊が可能となります。

三崎防波堤標準横断面図



三崎航路標準横断面図



## 2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行済額	年度別執行額			30年度見込
当初	今回 (前回差)		~28年度	28年度	29年度	
480	3,212 (+2,732) +569%	91	0	60	31	103

(1)現状及び見通し [評価 A・B・C]

- 平成28年度に西防波堤の撤去について設計を実施した。
- 平成29年度に三崎航路の静穏度調査を実施し、三崎防波堤の延伸が必要であることが判明したため、航行安全の確保に向けた事業内容を精査した。
- 平成30年度から工事着手し、平成32年度の完成を目指す。

### 【事業費増加の理由】

当初、三崎航路の拡幅を行うため、西防波堤の撤去(事業費4億8千万円)を行う事業だったが、詳細な検討(静穏度調査)を進めた結果、三崎航路の波高が高く、漁船の入港に支障をきたしている状態であることが判明したため、三崎防波堤の延伸(事業費27億3千万円)を行う必要が生じた。

※港内における静穏の度合い。船舶の操船・停泊・係留の安全性を判断する指標。(百万円)

事業	当初	変更	増減
西防波堤撤去	480	480	0
三崎防波堤延伸	0	2,732	+2,732
合計	480	3,212	+2,732

(2)期待される効果 [評価 A・B・C]

- 三崎航路は、漁船が小名浜港漁港エリアへ入港するための重要な航路である。
- 三崎航路の拡幅により、大型漁船がすれ違えるようになり、効率的な漁業活動が可能となる。
- また三崎防波堤整備による航路静穏度の向上により、入港する漁船の安全を確保することができる。

(3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向

[評価 A・B・C]

- 効率的な漁業活動及び入港する船舶の安全に支障をきたしている状態であり、地元漁業協同組合から事業の早期完成が望まれている。

(4)評価指標の状況 [評価 A・B・C]

評価指標	採択時(H28)	前回(-)	完成時(H32)	備考
水揚量	5,000トン/年	-	10,000トン/年	
水域避泊	不可	-	可能	

【その他参考となる数値】

(5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価 A・B・C]

$$B/C = \frac{2.9+43.0}{4.1+24.0} = 1.63 \text{ (前回値 -)}$$

- [B] 港湾事業における総便益(輸送費用削減便益+海難減少便益の合計)
- [C] 港湾事業に要する総費用(西防波堤撤去に要する事業費+三崎防波堤延伸に要する事業費の合計)

事業費は増加するがB/Cが1.63確保されており、ほぼ計画とおり事業効果が見込まれる。

(6)コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価 A・B・C]

- ケーソンの中詰材に銅ガラミ(銅の精錬過程で発生する副産物)を用いて、ケーソン幅、マウンド幅を縮小するなど、コスト削減に向けて可能な取組を積極的に実施する。

## 3 評価

(1)県の対応方針案

(2)理由

見直し継続

計画変更により事業費が増加するものの、水産業の発展に寄与し、東日本大震災からの復興を後押しする事業であることから、計画を変更し重点的に整備を進める必要がある。